

令和2年度 第3回鹿児島市環境審議会 会議概要

【日 時】

令和3年1月22日（金） 14時00分～16時00分

【場 所】

市役所東別館9階 特別中会議室

【出席委員】

有山委員、伊荻委員、江口委員、長船委員、小山委員、諏訪委員、富安委員、西委員、西園委員、二宮委員、丸山委員、三原委員、宮本委員、森田委員

【会 次 第】

1 開会

2 議題 次期環境基本計画骨子案について (関連計画)

- ① ゼロカーボンシティかごしま推進計画
- ② 再生可能エネルギー活用計画
- ③ 次期一般廃棄物処理基本計画
- ④ 次期生物多様性地域戦略

3 閉会

【議事概要】

< 2 次期環境基本計画 >

委 員：新型コロナウイルスの影響で大都市から人が移動し始めており、今後の人口動態や年齢構成は誰もわからない状況にある。この状況を踏まえ、計画の点検及び見直しを細目を実施してほしい。また、「情報収集と市民への提供」、「情報の分析と施策への反映」ということを意識して進めてほしい。

事務局：コロナ後の姿は誰も予測できない状況である。環境の分野では、環境に配慮した復興「グリーンリカバリー」という視点でコロナ後の世界を進めていくべきと言われていいる。市としても、情報を収集し、分析・提供について留意し進めていきたい。

委 員：国の動向を反映することはその通りかと思うが、地方自治体として、国がどの程度のことを示したら、市としてどう動くかを整理してほしい。市としての考え方がないと国に振り回されてしまう。委員の皆様から意見があったように、実際に困っている市民に対応した市民に身近な計画としてほしい。

< 2 ① ゼロカーボンシティかごしま推進計画 >

委 員：公共交通に関して、市交通局バス路線の一部は民間企業に移譲された。今後3年間は市が運営した路線を維持されるようだが、その後はどうなるかわからない。民間企業へは市の意向が反映されないのではないか。計画策定において、どう整理しているか。

事務局：公共交通に関しては、交通局や民間企業と連携しながら進めなければならないと考えているが、バスやトラックの電化は特に難しいと聞いている。国のイノベーションに期待しつつ、最新情報を交通事業者に発信しながら、交通政策に関する計画と整合を図りながら、どのような方向性が良いか研究しながら進めていきたい。

< 2 ② 再生可能エネルギー活用計画 >

委員：「家庭の卒FIT電力の活用検討」とあるが、どのように活用するのか。

事務局：固定価格買取が終了した「卒FIT電力」を、小売電気事業者と連携し高く売電でき、安く買電できるようにすることで、発電側と需要側の双方にとってプラスとなる電力の需給が行えるような仕組みの構築を目指す。

< 2 ③ 次期一般廃棄物処理基本計画 >

委員：「エネルギー源としての廃棄物の有効利用」について、発電のことが記載されているが、熱利用はどのように考えているか。熱を利用したバイナリー発電や冷暖房に活用できると思う。

事務局：清掃工場では熱回収もしており、清掃工場の場内への活用や、温水として地域で活用している。熱利用に関することも計画に記載を検討する。

< 2 ④ 次期生物多様性地域戦略 >

委員：骨子案44ページから生物多様性に関することで「かごしま環境未来館を拠点に」と記載されているが、千葉県の生物多様性センターなどと比較すると、かごしま環境未来館は生物多様性というよりは、環境全般に関する施設という印象がある。今後は、新たな要素を加えていくのか、それとも専門的な人材を育成する、データを収集し、調査するなど、どのように進めていくことを考えているか。

事務局：先進的な取組をしている自治体には委員がお示しのような生物多様性センターが設置されており、現在は全国に17か所ある。特に名古屋市が進んでおり、そこから情報収集をしている。かごしま環境未来館では施設のリニューアル時に生物多様性の展示に力を入れたところである。今後は、一般の方に対する生物多様性の重要性などを周知することに力を入れるとともに、生物多様性センターの設置についても研究しており、計画の中でどのように記載するかを検討している。